

聖書:ルカの福音書4章31～44節

説教:寂しいところへ出て行くイエス

はじめに

今日登場するカペナウムは、ガリラヤ湖の北側のほりにあって、イエスの最初の弟子となるシモン・ペテロもこの町出身です。五年前にイスラエルに行かせていただいたとき、実を言うとこのカペナウムにも寄るはずでした。ちょうどこれから出発するというその日の朝、私は飲んだ水が原因で体調を崩してホテルで休むことになり、行くことができませんでした。なんとも寂しい思いをしながらホテルの部屋で数時間横になっていたら元気になってきたので外に出て湖の周辺を散策してみました。二千年前、イエスもこのあたりを歩いていたのかと考えると、なんだかうれしくなったことを思い出します。

1 カペナウム

1) 悪霊が出て行く

カペナウムに来る前に、イエスをご自分の故郷であるナザレにいたとき、村の人々は、なにかおもしろい奇蹟を見せてくれるに違いないと期待しながら、会堂でイエスを見つめます。イエスは立ち上がってから預言者イザヤの書を読むと、みな真ん中に座ってこう言われます。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のみことばが実現しました。」そのすぐ後、イエスは厳しいことを言う。あなたがたが期待するような奇蹟をこの村では絶対に起こしません。これを聞いて人々は怒りに燃え、イエスを村から追い出してしまいました。

ところがカペナウムではナザレの時とはまったく違います。会堂にいた汚れた霊につかれた人が大声で叫んだとき、イエスが彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言うと、悪霊が出て行く。これを見ていた人たちは、「このことばは何なのだろうか。権威と力をもって命じられると、汚れた霊が出て行くとは」と言いながら驚いた。

2) シモンの姑、病人たちをいやす

そればかりではありません。会堂を出られたイエスは、シモン・ペテロの家に向かい、シモンの姑がひどい熱で苦しんでいたのをいやす。その後のことは、40、41節に書かれています。「日が沈むと、様々な病で弱っている者をかかえている人たちがみな、病人たちをみもとに連れて来た。イエ

スは一人ひとりに手を置いて癒やされた。また悪霊どもも、「あなたこそ神の子です」と叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは悪霊どもを叱って、ものを言うのをお許しにならなかった。イエスがキリストであることを、彼らが知っていたからである。」

なぜ日が沈んでから病人を連れてくるのかと、不思議に思うかもしれませんが。この日が安息日であったことと関係があります。当時律法学者やパリサイ人たちは、十戒の四番目にある「安息日にはいかなる仕事もしてはならない」という戒めを細かく規定し、長い距離を歩くことは労働にあたるので、礼拝するために会堂に行く以外は村から出てはいけないし、いのちに関わるような怪我や病気でなければ、治療行為もしてはならないと教えていた。だから安息日が終わる日没までは外の出られません。

イエスがおられた家は、立派な施設が完備されている病院ではありません。そんなところへ担架に乗せられた病人やけが人が日没とともに押し寄せてくるのですから、まるで野戦病院のような騒ぎになったでしょう。こんな場合、どんな医者でも丁寧に見ている余裕などないはずです。しかしイエスは、ひとり一人に手を置きながら丁寧にいやしていきました。

2 朝になって

1) 寂しいところへ出て行かれた

そんなことからイエスがどれほどに弱っている人々を愛されていたのかがよく伝わってきて、ほっとします。しかし続く42節はどうでしょうか。「朝になって、イエスは寂しいところへ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回って、みもとまでやって来た。そして、イエスが自分たちから離れて行かないように、引き止めておこうとした。」

「寂しいところ」、これは「荒野」とも訳されることばです。イエスは朝になると、家も何にもない荒野に出かけた。ここで二つ疑問が湧いてきます。

一つ目。普通、出かけるときはほかの人に伝えてから外出します。ところがイエスは誰にも告げずに居なくなってしまったようなのです。それで、人々がイエスを捜し回る騒ぎになってしまう。どうしてだろうか。そんな疑問です。

二つ目の疑問。イエスは寂しいところに行かれて何をしていたのでしょうか。何も書いてありません。それで誰もが考える。夜通し治療に当たっていたのだから、よほど疲れたはずだ。それでひとりになりたかったのだろう。そんなふうに好意的に解釈すると思います。でもイエスがなさることにはすべて意味があるはずです。まして、ルカが聖書にこの時のことを詳しく書くのには必ず何か訳がある。ただ疲れたのでポツといなくなったとは思われない。

2) 離れて行かないように、引き止めようとした

このことを考える鍵は42節後半です。「イエスが自分たちから離れて行かないように、引き止めておこうとした。」それに対してイエスは43節でこう答えます。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

「ああそうか。イエスには限られた時間しかないのだ。その限られた時間の中で救いの福音を一人でも多くの人に宣べ伝えなければならぬ。それで出て行ったのだろう。」そんなふうに想像する。

3) どうして事前に伝えないのか

でも、一つ目の疑問が解消しません。福音を宣べ伝えるという大切なご用があったにしても、いなくなる前にひとこと断るべきではないですか。これは、子どもだって知っている常識です。イエスはそんな常識を知らなかったのか。そんなはずはない。イエスは、あえてみなに黙って寂しいところに行かれたと考えなければなりません。

3 イエス

1) 神の国の福音とは？

そもそも神の福音とは何でしょうか。イエスはこの神の国の福音を宣べ伝えるために遣わされたと言っているのですから、ナザレでもそうしたはず。どこでそうしたか。イエスは、預言者イザヤの書を開いて語っていました。18, 19節。「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、主の恵みの年を告げるために。」そしてこう言われた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のみことばが実現しました。」

イザヤが預言した神の国がいま皆さんの目の前に到来している。それも近い将来とか、明日ではなくて、今日到来した。そうイエスは語りました。でもこの日、ナザレで何が起きたか。何も起きません。いや、もっと正確に言えば、人々は奇蹟が起きることを期待したのに、イエスはきっぱりと拒絶をして何も起きないようにした。その結果イエス、は怒りに燃える人々の手で追い出されてしまった。人の目で見ると限り少なくともナザレでは、神の国は一層遠のいてしまったようにしか見えません。

それに比べるとカペナウムではすばらしいことが起きました。多くの悪霊を追い出し、シモンの姑の熱を叱り、たくさんの病人をいやした。神の国が近づいた、なによりの証拠です。

それはいいのですが、ナザレのことはいったいどうなるのでしょうか。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のみことばが実現しました。」と言われたのですから、神の国がナザレにも来たはずなのです。ナザレは永遠にのろわれてしまったのでしょうか。もしそうであるなら、イエスを十字架に追いやった私たちも永遠にのろわれることになります。

2) 追い出され、いなくなる

こう考えてみたらどうでしょうか。イエスは神の国の福音を語り、ご自分の手で実現しました。ただ、神の国と言われても私たちの肉の目にはわかりにくい。それで私たちにも神の国が来たことがわかるように、イエスは悪霊を追い出し、病人をいやされる。それがカペナウムで起きたことだと考えることができます。

では、悪霊を追い出し、病人のいやされることがだけが神の国の到来のしるしなのでしょう。いいえ。まだあります。

ナザレとカペナウム。この二つ比べてみるとまるで正反対と言えるほど違うことだらけでした。しかし、ただ一つだけ共通点があります。ナザレではイエスは町から追い出され、いなくなりました。カペナウムでも、自ら人々の前からいなくなった。追い出されるか、自らいなくなるか、その違いはあるけれど、いなくなることにおいては同じです。考えてみれば、この方は最期に十字架に追いやられ、墓に納められてこの世からいなくなったのです。このことから気がつきます。神の国が実現するために、神の聖者、神の子である方がいなくならなければならないことを示しているのではないですか。

3) いなくなることが私たちの恵みとなる

どうしてイエスは人々に告げずに突然居なくなつたのか、不思議でした。でも、いなくなることが十字架とつながっているならばどうでしょうか。

「これから十字架に行きますから」と言っても人々は理解できたでしょうか。弟子たちだって理解できなかつたのですから、だれも理解できません。いや、この方が神の子、神の聖者であることを理解できなかつたから、私たちはイエスを十字架に追いやつたのではないですか。

イエスは私たちの友であるというのならば、どうして目に見えないのだろうか。ときどきそんなことを質問されます。考えてみれば当然だった。私たちが追い出したから、イエスは居ないのです。

しかし、そんな私たちにイエスは何をしてくださったのか。十字架において私たちの罪が救われる道を備えてくださいました。それも不思議な方法によつてです。この方のいなくなることが、私たちの恵みとなるようにして下さっていた。

神のはかりしれない救いのご計画に感謝します。